

とにかくまあ関係各位のみなさんには今年の記念事業をぜひとも成功に導いていただきますよう陰

「昨年十月二十一日付の朝日新聞ウェブニュース『怪人二十面相も祝う』から引用しますと『名張市生まれの推理作家、江戸川乱歩（1894～1965）の誕生日前日の20日、初めての「乱歩生誕祭」が、近鉄名張駅東口で開かれ、怪人二十面相のパフォーマンスや合唱で祝った。／市民らでつくる実行委員会（小島敏孝世話人）が来年の生誕120周年を前に乱歩生誕の地を市内外にPRしようと企画した。／雨の中、黒マント、シルクハット姿で怪人二十面相に扮した会社員上田豊太さん（43） Ⅱ 桔梗が丘4番町Ⅱが、オリジナル曲に乗って、駅前立つ乱歩像の前に登場。「乱歩先生は50歳を過ぎて名張の人たちと交流し、心の古里となった。名張との絆を思い、さらなる発展をお手伝いしたい」と口上を述べた』ゆうよなこととして」

「当日はあいにくの雨でしたか」  
「名張のまちはいまやいろいろなところから見放されてしもてるもつばらの評判で」  
「たまたま天気が悪かっただけやゆうてますがな」  
「つづきまして今年一月一日付の毎日新聞ウェブニュース『江戸川乱歩…生誕120年 “大還暦” 祝おう（その2止）／三重』となります」

「乱歩生誕百二十年の年頭を飾った記事ですか」

「記事の一部を引用いたしますと『江戸川乱歩の愛好家でつくる「乱歩蔵びらきの会」は今年で結成10年を迎える。作品の魅力を発信する同会の代表、的場敏訓さん（55） Ⅱ 名張市百合が丘東3Ⅱは「地域を活性化させるには、若者をいかに元気にさせるか。若者を共感させる物を、その地域がどれだけ持っているかに懸かっている」と強調する。名張については「素晴らしい文化人を輩出し、乱歩の生まれた地に誇りを持ちたい。今秋の生誕120年は、単なる記念イベントとして、一過性で終わらせたくない」と意気込む』

「乱歩蔵びらきの会の話題ですか」  
「その会がじつは芭蕉さんは行かずにたくさんのあほさんが行った官民合同事業『生誕三六〇年芭蕉さんがゆく秘蔵のくに伊賀の蔵びらき』の残党組織であるという事実はこの記事には書かれてないんですけど」

「そんなことわざわざ書く必要ありませんが」  
「とにかくまあ関係各位のみなさんには今年の記念事業をぜひとも成功に導いていただきますよう陰ながらまた心からお願いを申しあげまして」

「乱歩生誕百二十年の話題はそれでおしまいですか」  
「この漫才はいよいよここからが本題です」  
「いったいどこまで行きますねん」